

『滝根町の2つの鍾乳洞』

滝 根町には国指定天然記念物の入水鍾乳洞と市指定天然記念物あぶくま洞の2つの鍾乳洞の存在が現在のところ分かっています。

そのうち、入水鍾乳洞は滝根町菅谷と常葉町早稲川にまたがっており、1927（昭和2）年に神俣在住の薬剤師蒲生明を中心として鈴木菊意、佐藤留男、富岡一男の4人により第1洞が発見、探索され、29（昭和4）年に第2洞を探索、



その後、文部省の天然記念物調査官による調査の後、34（昭和9）年に国の天然記念物に指定されました。また、あぶくま洞は、69（昭和44）年に柳沼伝次郎によって洞口が発見され、先崎三郎とともに最初の探検を行っています。当初は「釜山鍾乳洞」という仮の名が付けられましたが、73（昭和48）年に名称が公募され、「あぶくま洞」となりました。鍾乳洞は、石灰岩が地下水などに侵食されてできた洞窟で、阿武隈山地には未変成の石灰岩礫を含む層が多く分布しているため、多数の鍾乳洞があります。規模の大きい鍾乳洞は相双地方と滝根町から常葉町にかけての2カ所しかありません。

す。カルスト地帯に見られる地表のくぼみをドリーネと呼び、この部分に水がたまり、石灰岩を溶かして地中に入り込み、鍾乳洞を作っていきます。2つの鍾乳洞は、東側の早稲川から流れ込む水によって作られたものと思われ、それまで流れていた川の水が急になくなる「ネコジャクシ」（実際には鍾乳洞内に流れ込みます）と呼ばれる箇所があります。

い陸地です。会津地方の北部ではおよそ1600万年前の貝の化石が出土しています。田村市からこれまで海に關係する貝の化石などは出土していません。そのほか古来より伝説があつて知られている鬼穴（達谷窟）も鍾乳洞の一つで、その奥は入水鍾乳洞へ続いています。また、あぶくま洞では現在でも新たな洞が発見されており、これまで全長600mといわれていた長さがより長くなる可能性があります。



1_ あぶくま洞 「滝根御殿」
2_ 入水鍾乳洞
「あぶくま洞」と「入水鍾乳洞」の最新情報はコチラ▶▶▶
あぶくま洞ホームページ

次回は、船引町の大鍋矢神社に關連する文化財を紹介する予定です。

田村市の文化財一覧はこちら▶▶▶



真波のいろは

皆さんこんにちは。地域の商材や魅力開発を行っている地域おこし協力隊の中山真波です。

東京都荒川区から田村市へ移住し、2度目の紅葉シーズンを迎えることができました。黄金色に輝く稲穂を目の前に、忙しくご家族やご近所総出でお米が収穫され行く様子は、都会にはない自然と共に生き行く、田村の趣あるワンシーンと感じています。

そんな中、田村の農と食をつなげ、地域食の伝承と新たな食文化の開発に取り組みさせていただきました。

地域おこし協力隊奮闘記
コロナウィルスの感染拡大がピークを迎える中、食のイベントを考える無謀な戦略ではありましたが、頭のどこかでコロナ禍が収まることに期待をし、10月30、31日に廃校を活用した、旧石森小学校（現在はテレワークセンターテラス石森）で、地域の文化祭的な収穫祭イベントを開催。旬野菜や新そば、地域



三の巻

御礼 たくさんの方に
収穫祭を楽しんで
いただきました

食であるえごまコロッケや、きむコロ、その他加工品などの販売をご家族や知人等と楽しめた方々もいらつしゃれば、廃校活用の施設に興味を持たれる方々もいらつしゃり、予想以上に多くの皆さんにお越しいただきました。日頃の活動からつながった生産者や飲食事業者の協力を得て、あぶくま地域に伝わる郷土食や田村市産の農産物を活用した新しい地域食「つづみ」の試食を行い、多くのうれしい声が寄せられたことに感謝します。



また、田村地域の飲食店のご協力のもと「あぶくま米騒動」（11月23日〜28日）の企画を行いました。磐越東線の車両内広告や、バス広告によって、何度も繰り返し目にすることで田村の知名度を上げていく、これまでと違った広報戦略も行い、地域全体を盛り上げることができました。

高齢化から担い手不足による、地域の衰退が課題とされる中、多様な側面から田村地域の認知が広がり、地域内外の交流からにぎわい創出につながることを期待し、引き続き尽力していきます。

たくさんの方々とお会いする機会を創出しながら、皆さんと「たむらぐらし」を楽しみたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひします。
※「つづみ」：肉や田村産の野菜を皮に包み調理した、うま味を凝縮した至極の料理

有料広告募集中

問い合わせ…総務部 経営戦略室 (☎0247-81-2117) へ

広告欄 Advertisement